白沢村政施行51年に幕

閉村にあたって

白沢村長　岡部 善宜

白沢村は、昭和30年４月30日に和木沢村と白岩村の２村が合併し、以来幾多の星霜を経て51年の歳月が流れ、今、新たな時代に対応する地方自治の方向として新生「本宮市」の誕生により白沢村の歴史に幕を閉じることとなりました。

昭和30年の合併当時の人口は11,598人でしたが、出稼ぎや若者の都市流出等による人口減から昭和55年には8,554人まで減少し、人口減少と財政力指数の低下により同年「過疎地域」の指定を受けました。

また、一時期は「住みやすさワーストワン」という不名誉な報道がありましたが、議会議員の皆様方の真摯（しん）な取り組みをはじめ、村民一丸となった地域振興へ向けての情熱が実を結び、およそ10年の歳月をかけて過疎地域からの脱却を果たし、現在の姿に復興することができました。

この間、「住んでよかった、いつまでも住んでいたい」という村づくりを目標に、自然の豊かさを活かし心の豊かさを求めまい進し、内外に誇れる村づくりに向けて、保育所・幼稚園の一元化、義務教育・社会教育の拠点づくり、社会福祉の充実、教育・スポーツ施設の設備などを進めてきました。

さらに、上水道の全戸給水の早期実現、糠沢農免・平成大橋の完成、あだたらドリームライン・安達太良大橋の完成をはじめ、原点である農業基盤の確立のための水田のほ場整備の完成、県営・団体かんがい排水事業の完成、豊かな自然・安心安全の食農基盤確立の「福舞里」の郷づくり等、社会資本の整備と農業基盤の整備に努めてきました。

定住環境と雇用の場の確保では、住宅団地の造成による人口増を図り、工業団地の造成とともに企業誘致を積極的に進め、雇用と所得向上対策の実現に向けての取り組みの結果、現在では、雇用数の伸び率、工業製造品出荷額の伸び率が県下一位、製造品付加価値率が県下二位と着実に本村振興の核として実績を積み上げていただきました。

また、住民福祉活動における数多い取り組み、医療保険・介護の充実、さらには、地域活動の中心となる地域振興協議会等の自主活動など、9,300村民の皆様のご協力とご尽力により村民一丸となった村づくりを実現し、平成８年から今日まで、家族構成人員が4.3人の「日本一大家族の村」の誇りを継続、生活の基礎である仲良く暮らせる明るい笑顔の家庭づくりのために、寄せられた情熱と努力に改めて感謝申し上げます。

今、新たな時代が幕を開け、この社会情勢の変化により、日本はかつて経験したことのない時代に突入しようとしています。本格的な地方分権時代・少子高齢化社会の到来、情報化・国際化に対応した多様な行政サービス水準の確保、極めて厳しい財政状況の中での効果的、効率的な行財政運営が求められるなどの背景から、平成16年から合併を議会、村民の皆さんと真剣に考え、歴史や文化、農業・商業や交通など昔から結びつきの深い本宮町と合併の協議を進め、平成19年１月１日に合併することになりここに閉村のときを迎えました。

万感胸にせまる想いを禁じえませんが、未来への新たな出発点にさせていただきます。今後は、新市基本計画の将来像である「水と緑と心が結びあう未来に輝くまちづくり」のため、それぞれの持つ自然環境や人づくり・こころづくり・福祉づくり、農業・商業・工業の活性化、歴史や文化などを共通の生活圏の土台として、地域の一体的な発展を願うものであります。

新しいまちづくりに向けて皆様の一層のご理解とご支援をお願いし、閉村のごあいさつといたします。

閉村によせて

白沢村議会議長　根本 善裕

白沢村は、昭和30年４月30日に旧和木沢村・旧白岩村が合併して誕生し、以来51年の歴史を刻んでまいりましたが、新たな時代に対応する地方自治確立に向けて、来年、平成19年１月１日本宮町と合併し、本宮市として生まれ変わるため、本村の歴史に幕を閉じることになり、感無量のものがあります。

顧みますれば、合併後は風習・習慣、そして歴史・文化など、意見の相違は多々ございましたが、諸先輩各位のご努力と幾多の困難を乗り越えて、今の素晴らしい白沢村があるものと理解いたしておるところです。

白沢村誕生後まもなく村の基幹産業であります農業に、曲がり角がおとずれ、以来、全村挙げて基盤整備事業計画を樹立、農業の近代化、機械化、省力化の取り組みを行いましたが、結果は、出稼ぎや若者の都市流出が進み、昭和55年には過疎地域の指定を受け、昭和60年には県内で一番住みにくい村との報道がされました。

その後、村民一丸となって道路や水道事業などの生活基盤の整備を進めると共に、定住環境の整備のため住宅団地造成と販売、工業団地の整備と企業誘致の取り組みを行い、人口の増加と雇用の場の確保・住民所得向上を図ったため、過疎地域からの脱却を見ることができました事は、諸先輩の方々はもちろん、歴代村長の方々、議員の皆さん、職員の皆さん、特にそれを今も受け継ぎ、ご理解とご協力をいただきました村民の方々の、ご尽力の賜物であると心より感謝しておるところであります。

しかし、近年の社会・経済情勢の変化は本村にとっても大きな影響を受け、特に地方自治体を取り巻く環境は、年々厳しい状況となっておりますことは憂慮すべきことと思います。

国は、地方は地方の責任でと、地方の裁量は大きなものとなりました。

今後、住民のニーズは大きく高まることが予想され、これらに応えられる夢と、希望が持てる住民福祉の向上・地域の発展を図るため、この度の合併は、白沢村・本宮町の新設対等で協議を重ね、本村の農業・商業・工業をはじめ伝統文化など、新しい時代にふさわしい郷土白沢の更なる発展の願いを込めて、合意するに至った次第であります。

半世紀の間、親しんだ村がなくなることは、もちろん寂しさもあります。しかし、何よりも合併を新しいまちづくりの好機としてとらえ、新しい市の基本目標である「水と緑と心が結びあう未来に輝くまち」のために、新しい歴史を力強く作っていくことをお約束申し上げ、閉村のごあいさつといたします。